急性期医療の中核施設

「兵庫医科大学病院 急性医療総合センター」がオープン！

地域の基幹病院として最先端の医療を担う特定機能病院であり、また災害拠点病院でもある兵庫医科大学病院に、このたび、緊急・重篤な状態にある急性期の患者さんを受け入れる急性期医療の中核施設「急性医療総合センター」がオープンした。センターの特徴について、太城力良病院長に聞いた。

太城 力良（たしろ ちから）病院長

特徴は2つ。「急性期部門の集約」と「災害に強い建物」

急性医療総合センターの最大の特徴は、救急、集中治療、手術部門など急性期を担う部門を1つの建物に集約したことです。これにより、診療科を越えた複合的な治療もスムーズに行えるようになり、迅速な処置やチーム医療が求められる急性期医療において、これまで以上の連携強化につながると期待しています。

また、兵庫医科大学病院は、災害時の地域医療を担う「災害拠点病院」でもあります。いざという時にその機能を最大限に発揮できるよう、センターの建物自体を災害に強い構造にしているのも特徴です。センターのすぐ横には武庫川が流れていますが、水害が発生しても医療に支障をきたさないよう、通常は地階に設置する機械室を最上階に配置。また地震対策として、揺れに強い免震構造を採用しています。

チーム医療と連携の良さを活かせるフロア構成

急性期医療は、一分一秒が勝負です。重篤な疾患に迅速に対応するため、フロアの構成にも工夫を凝らしています。まず一階は、救急搬送されてきた患者さんを受け入れる救命救急センター。同じフロアに血管内治療などを行うIVRセンターを置くことで、心筋梗塞や大出血などに迅速に対応できるようにしています。二階にEICU（救急救命集中治療室）とCCU（冠動脈疾患集中治療室）、三階に手術後の集中治療を担う集中治療センターを配置。集中治療部門を集約することで、相互の応援も可能です。

また、五階のアイセンターは10号館にある眼科病棟と、六階の周産期センターは10号館の産科病棟とつながっており、病棟と手術室の行き来や急性期から回復期への移行がスムーズに行えるようにしています。

質の高い医療を提供し続けるために

センターでは、医師、看護師をはじめ、さまざまな職種のスタッフが、常に緊張の連続の中で働いています。質の高い医療を継続して行うためには、そんなスタッフたちが心身を健康に保ち、常にベストの状態で患者さんやご家族に接し、治療に臨むことが大切と考え、専用ラウンジを設けるなどスタッフのアメニティにも配慮しています。

兵庫医科大学病院は、2012年に開設40周年を迎えました。これからも、患者さんやご家族に寄り添った、安全で安心、満足度の高い医療を提供したい。その想いを胸に、兵庫医科大学病院ならびに急性医療総合センターを運営してまいります。今後ともご助言、ご協力をよろしくお願いいたします。

ハイクラスな環境と、徹底した安心のサポートで、良質な暮らしをお約束します。

住み慣れた街で安心して心地よい暮らしを

メディカルグループホーム

甲南山手

Aging in Place,Aging Yourself

メディカルグループホーム甲南山手は、千種会グループが運営する「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」です。
充実の介護体制のもと 9 名の少人数グループで慣れ親しんだ方々と毎日穏やかにお過ごしいただけます。

ハイクラスな住環境設備

カフェのある生活

明るく開放的なリビング

落ち着きのある居室

イングリッシュガーデンと足湯

会話も弾む団らんスペース

高野槇の浴槽で楽しむ入浴

厳選素材のお食事

厳選された食材を使用し、日本の食文化を大切にした四季折々のメニューをお楽しみいただけるよう、法人直営のセントラルキッチンを構え調理を行っております。

徹底した医療介護体制

ご希望により在宅療養支援診療所の医師との協力医療体制により 365 日・24 時間オンコール対応が可能です。また、「認知症介護実践研修」などの研修を受けたスタッフがグループ法人内の精神科医師と協力し、皆様の症状改善に努めてまいります。

ご入居者様募集中

資料請求・ご見学・個別のご相談も承っております。

利便性の高い立地　JR 神戸線「甲南山手駅」より徒歩 7 分

神戸市東灘区本山中町 1-15-7

ご入居条件

認知症の診断を受けた方
要支援 2、要介護 1～5 の介護認定を受けた方
ご本人の現住所が神戸市内の方

■施設概要

●法人名 / 社会福祉法人千種会●名称 / メディカルグループホーム甲南山手●類型 / 認知症対応型共同生活介護●併設 / デイサービスセンター●開設年月日 / 平成 25 年 4 月●敷地面積 /489.21 ㎡●延床面積 /978.53 ㎡●居室数 /2 階 9 室・3 階 9 室・計 18 室（全室個室）●居室面積 /14 ㎡●居室標準設備 / トイレ、洗面化粧台●その他共用部 / リビング、ダイニング、浴室、カフェ、屋上園庭、足湯

お申込み・お問合わせ・資料請求

入居相談センター
9:00～18:00（土・日・祝含む）

0120-658-793（ろうごはちくさ）
または TEL078-441-0001（特別養護老人ホーム甲南山手内）

【法人概要】社会福祉法人千種会　〒658-0014　神戸市東灘区北青木 1-1-3
神戸市東灘区を中心に特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどを運営しています。

●写真は「メディカルグループホーム甲南山手」の施設の一例、イメージです。●記載情報は 2013 年 3 月現在のものです。

chikusakai group
千種会　検索
http://www.chikusakai.jp
詳細はホームページでもご覧頂けます。

救命救急センター

専門分野を持った医師が24時間対応

急性医療総合センターの一階および二階に設置されているのが、救命救急センターだ。

地域の救急医療体制は、厚生労働省により傷病の重症度に応じて「初期」「二次」「三次」の階層に分けた整備が行われている。兵庫医科大学病院は、三次救急医療機関として、二次では対応できない重篤な救急患者や、初期・二次救急医療施設からの救急患者を受け入れ、救命措置や高度な医療を24時間体制で提供している。

救命救急センター
小谷 穣治（こたに じょうじ）主任教授

兵庫医科大学病院の救命救急センターへの搬送の依頼は、問い合わせ、救急救命士処置の電話指示を合わせて年間約2000件。内訳は、交通事故や労働災害などによるけがなどの外因性疾患が45％、病気などの内因性疾患が55％となっており、幅広い疾患に対応しなければならない。救命救急センターの小谷穣治主任教授は「医師がそれぞれ救急に加えて、別の専門分野を持っているうえ、場馴れしているスタッフが多いのが特徴です」と話す。小谷主任教授も消化器外科医として15年のキャリアを持ち、一般外科、消化器外科、内視鏡治療などの指導医・専門医でもある。

新しい設備と強い連携で安心

急性医療総合センターでは、最大5人の患者さんを同時に受け入れることが可能だ。「血管内治療などを行うIVRセンターが同じフロアにありますし、同じ建物の中にある手術センターや周産期センターとエレベーターで直結しており、迅速に対応できるので安心です」と小谷主任教授。「兵庫医科大学病院は、すべての領域に対応できる総合病院であり、加えて診療科を越えて医師やスタッフの連携が大変強い。最近の高齢化社会を反映して、いくつかの疾患が複合している患者さんが多くなっていますが、そのような場合でも、効率が良く質の高い治療ができます」と話す。

初療室

また、特別なベッドやシャワー装置などを備え、重度の熱傷（やけど）や広範囲におよぶ熱傷の処置を行う熱傷治療室や、放射性物質や生物化学物質の汚染に対応する感染毒物洗浄処置室も設置しており、より幅広い対応ができるようになっている。

熱傷治療室

災害拠点病院としての役割

兵庫医科大学病院は災害拠点病院にも認定されており、救命救急センターの担う役割は大きい。阪神・淡路大震災やJR福知山線脱線事故などに対応した経験を活かし、十分な体制を整えるとともに、地域と連携した訓練なども行っている。また、専門的な訓練を受けたDMAT（ディーマット：災害派遣医療チーム）を組織しており、東日本大震災の際には、厚生労働省の要請を受けて現地入りし、被災地で医療活動を行った。

「災害時の初期救助は一般の方が担うことが多い。救助隊や救急車が到着するまでに、最適な行動・処置を行ってもらえるよう、知識習得のための講習や啓蒙も大切だと考えています」と話す小谷主任教授は、忙しい臨床の合間を縫って全国での講演や研修に走り回っている。

EICU・CCU

迅速な治療が求められるCCU

急性医療総合センターの二階には、EICU（救急救命集中治療室）およびCCU（冠動脈疾患集中治療室）がフレキシブルに運用する病床20床と一般病床24床が設けられており、救命救急センター初療室での処置後、集中治療が必要な患者さんはここに入院することになる。

急性心筋梗塞、不安定狭心症といった、心臓に関わる重篤な疾患を受け入れるのがCCU。日本人の死因第二位を占める心筋梗塞は、冠動脈が詰まって血行が途絶えてしまうことによって起こるため、どれだけ早く血流を再開できるかが救命のカギとなる。治療上では、発症から血流再開するまでの時間が120分以内、病院に到着してから90分以内が推奨されているが、これは、時間が経てば経つほど生命が危険にさらされるほか、障害や後遺症に結びつくことも多いため。分単位の対応の早さが、命と治療後のQOL（生活の質）に大きく影響する。

その点センターには、こうした緊急性の高い疾患に素早く対応できる機能が充実しており、CCU部長を兼任する内科 冠疾患科の大柳光正主任教授は話す。「患者さんが最初に運ばれてくる初療室と、カテーテル治療を行うIVRセンターが同じフロアにあるので、初療室での検査で心筋梗塞だと判明した場合、ただちにIVRで治療を行えます。さらに、そのすぐ上の二階がCCUとなっており、医師はもちろん、患者さんの移動もスピーディーに行うことができます」。

内科 冠疾患科、CCU（兼）
大柳 光正（おおやなぎ みつまさ）主任教授

地域医療の中核施設として

心肺停止による兵庫医科大学病院への救急搬送は、年間およそ200件。「こうした患者さんの5～6割が心筋梗塞。早急に適切な治療を行えば、歩いて帰ることもできます」。時間との戦いである心筋梗塞にとって、CCU、救命救急、IVRがほぼ同じ場所にあることは、命を救い、早期の社会復帰を実現するうえで、非常に重要なポイントとなる。また、西宮市消防局とともに救急車内にビデオカメラと心電図検査機器を搭載し、病院に到着する前に患者さんの病状を判断する伝送システムを導入するなど、地域と一体となった取り組みも進めている。

急性医療総合センターが地域の救急医療の中で果たす役割は大きい。救命救急センターには研修室が設置されており、地域の救急隊との症例検討会や講習会なども積極的に行っている。救命救急センターの小谷主任教授は「三次救急である兵庫医科大学病院の救命救急センターは、地域医療の最後の砦（とりで）なんです」と力を込める。「できる限り救急患者さんを受け入れるため、地域医療機関との連携をさらに深め、役割を果たしていきたいと思います」。